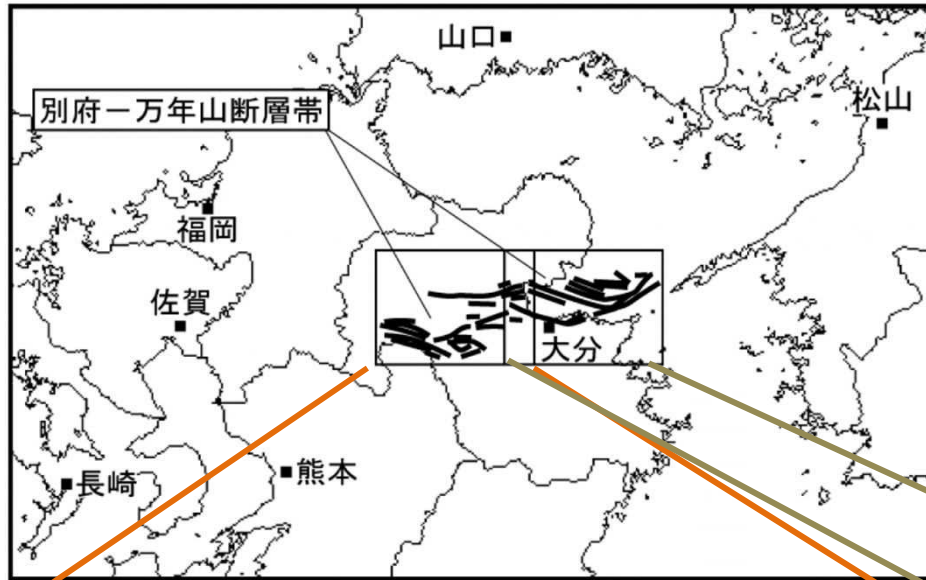


大分県有識者会議について

従来の評価「別府－万年山断層帯」

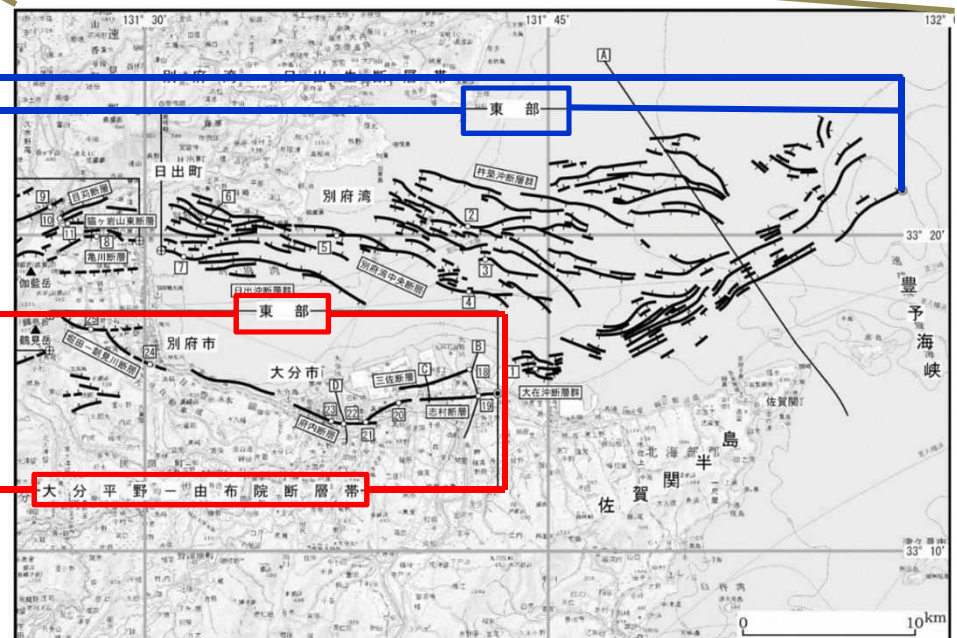
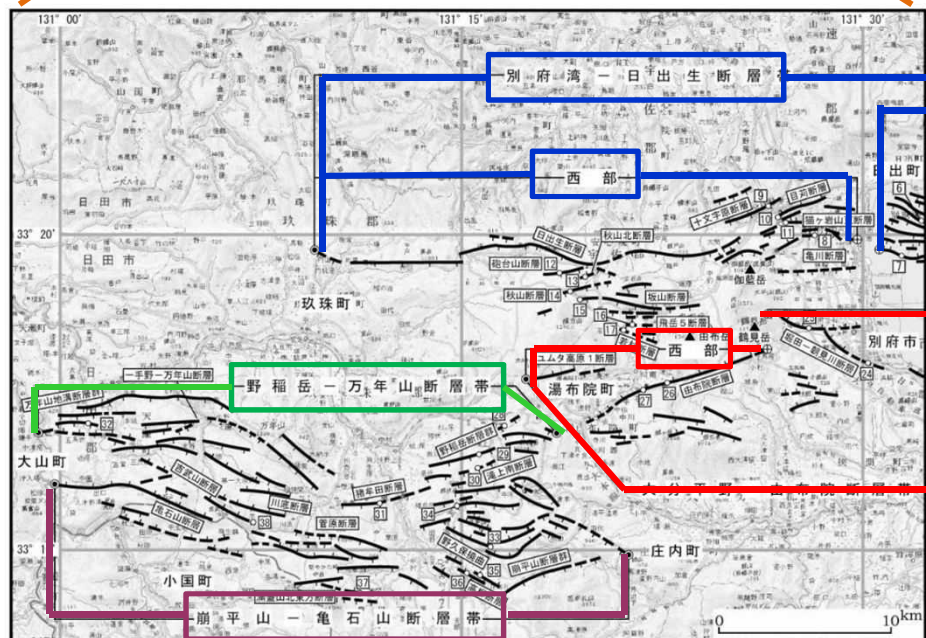


「別府－万年山断層帯」

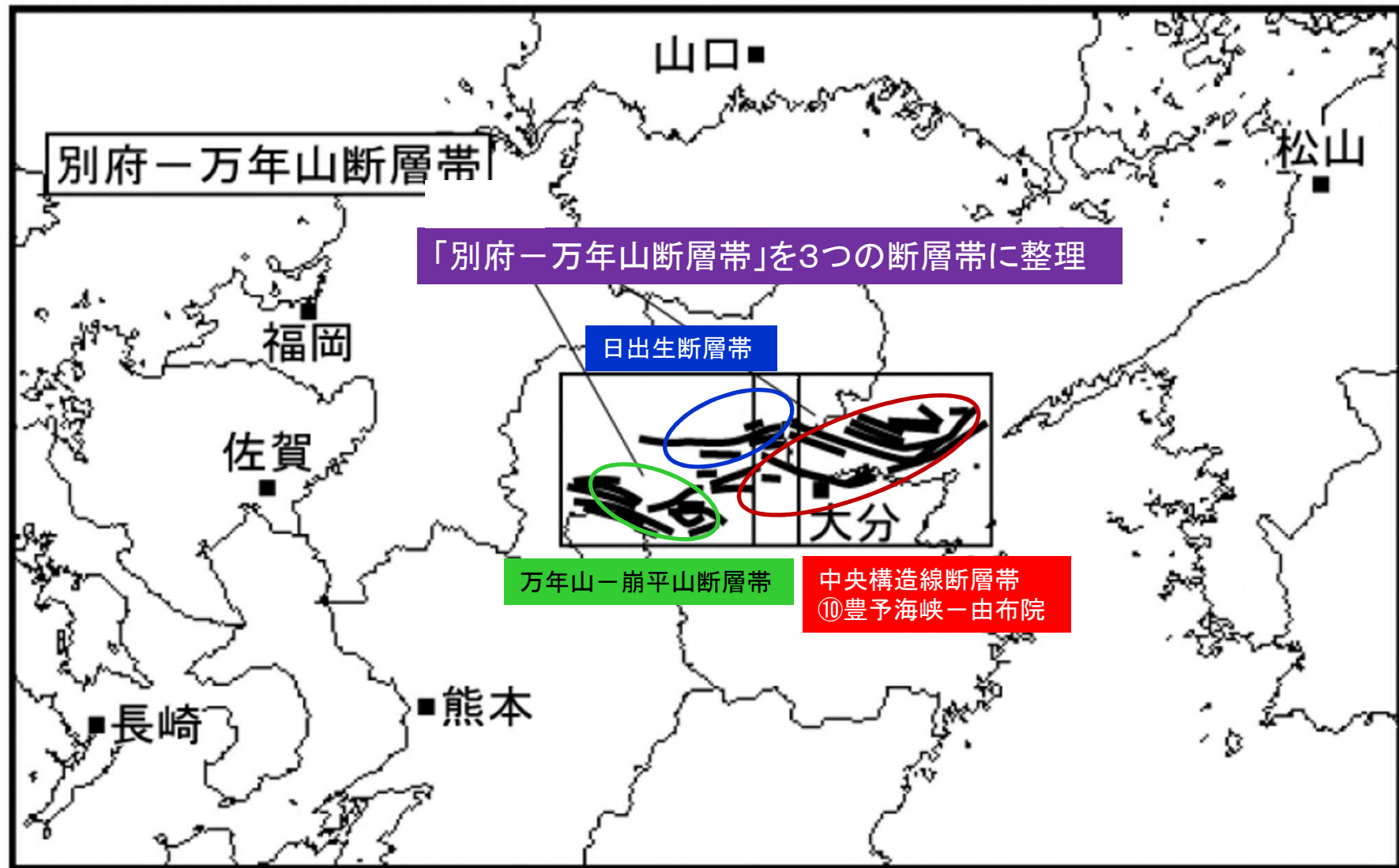
主要活断層帯の一つとして評価されていた

その構成断層帯

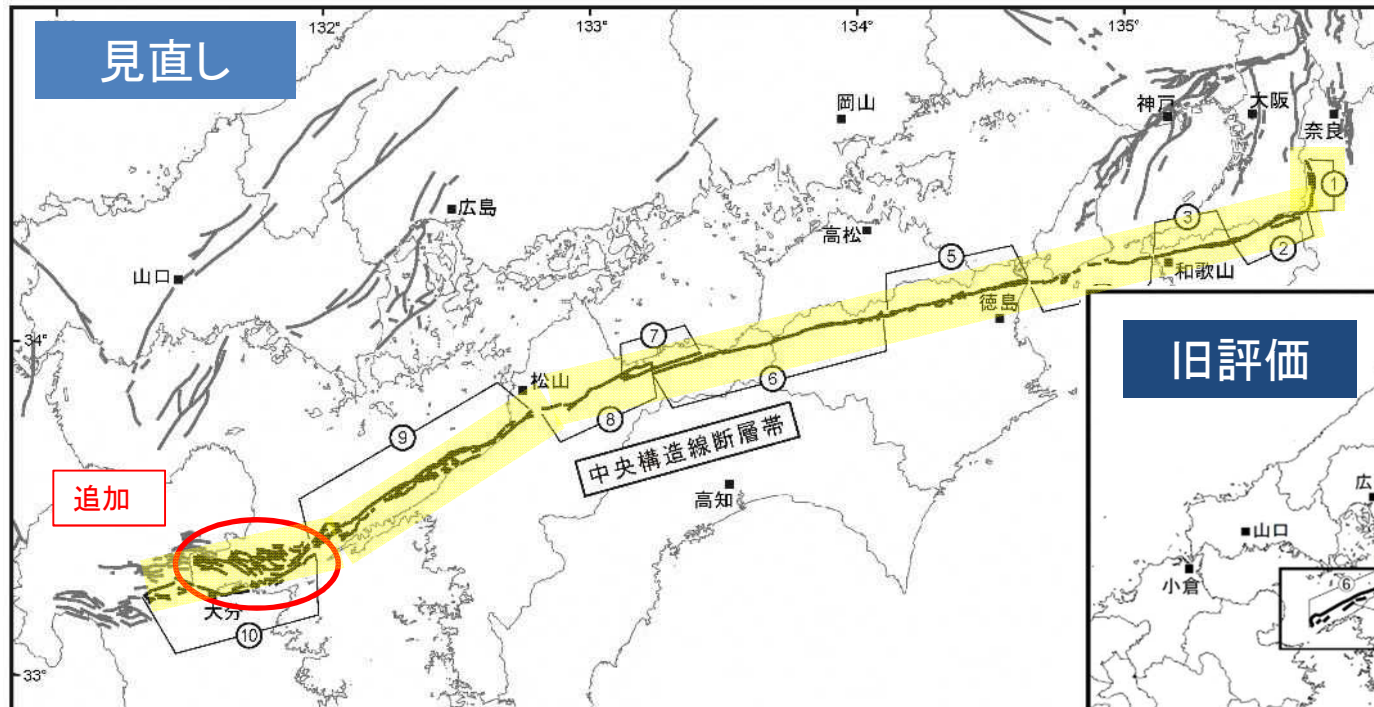
- ・別府湾－日出生断層帯／東部・西部
- ・大分平野－由布院断層帯／東部・西部
- ・野稻岳－万年山断層帯
- ・崩平山－亀石山断層帯



別府－万年山断層帯の長期評価の見直し



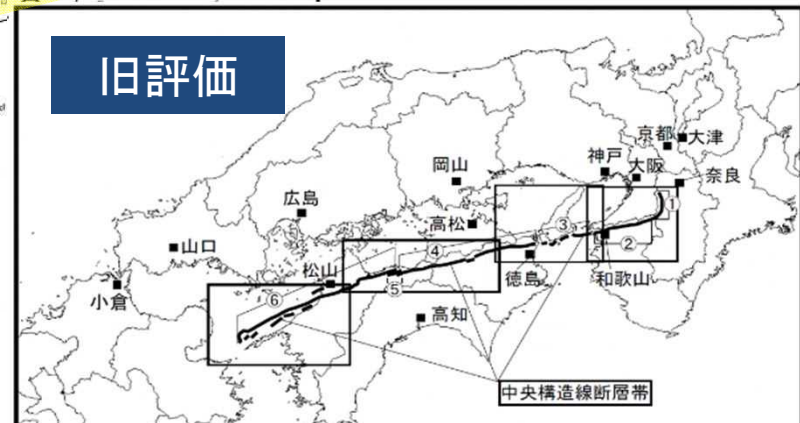
中央構造線断層帯の評価見直しのポイント



●【区間の追加】

- ⑩豊予海峡—由布院区間
- ・西端は由布院断層まで延長

全長約360km→約444km



区間	規模(M)	発生確率のランク	備考
①金剛山地東縁	6.8程度	Z	平均活動間隔:6-7.6千年 地震後経過率:0.2-0.3
②五条谷	7.3程度	X	最新活動時期:約2千2百年前以後、7世紀以前
③根来	7.2程度	A	平均活動間隔:2.5-2.9千年 地震後経過率:0.4-0.6
④紀淡海峡—鳴門海峡	7.5程度	A*	平均活動間隔:4-6千年 地震後経過率:0.4-0.8
⑤讃岐山脈南縁東部	7.7程度	A	平均活動間隔:0.9-1.2千年 地震後経過率:0.6以下
⑥讃岐山脈南縁西部	8.0程度もしくはそれ以上	A	平均活動間隔:1-1.5千年 地震後経過率:0.2-0.5
⑦石鎚山脈北縁	7.3程度	Z	平均活動間隔:1.5-1.8千年 地震後経過率:0.4以下
⑧石鎚山脈北縁西部	7.5程度	S*	平均活動間隔:0.7-1.3千年 地震後経過率:0.2-0.9
⑨伊予灘	8.0程度もしくはそれ以上	Z	平均活動間隔:2.9-3.3千年 地震後経過率:0.04-0.1
⑩豊予海峡—由布院	7.8程度	Z	平均活動間隔:1.6-1.7千年 地震後経過率:0.2-0.3

発生確率 (高い順に) S→A→Z X (発生確率不明)

大分県有識者会議について

1. 目的 「中央構造線断層帯の長期評価」の見直し(29年12月)にともない、県への影響と対策について有識者から意見を求めることを目的。

【具体的な検討内容】隣接区間との連動による別府湾地震の被害想定とその対策(「県地震津波被害想定調査」(25年3月)の見直し)

2. 委員 (会長) 竹村 京都大学名誉教授

役職	氏名	所属・職名	研究分野
会長	タケムラ ケイジ 竹村 恵二	京都大学名誉教授	地球物理学 地質学
副会長	コバヤシ ユウジ 小林 祐司	大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 次長 理工学部 准教授	都市計画 都市防災
委員	シミズ ヒロシ 清 水 洋	九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター長	地震学 火山学
	ヨシミ マサユキ 吉見 雅行	国立研究開発法人産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 地震災害予測研究グループ主任研究員	自然災害科学 地震動
	キタザキ ヤスフミ 北崎 康文	大分地方気象台長	気象
	サクライ ナリ アキ 櫻井 成昭	大分県立先哲史料館 主幹研究員	歴史古文書

3. スケジュール

2月22日 県防災対策推進委員会で設置を承認

4月19日 第1回大分県有識者会議開催

5月28日 第2回大分県有識者会議開催

※第2回有識者会議にて、被害想定調査見直しの基本方針を承認

※会議の議論を踏まえて、「新地震・津波対策アクションプラン(仮称)」へ反映を検討